

街路樹

学力向上に向けて 38

絵本から活字の世界へ

「絵本は、楽しんで読んでいたのに活字だけの本になったらつまらなくなった。」という声をよく耳にします。「絵本」を卒業して次の活字の本へ誘うにはどうしたらよいのでしょうか。どんな力を育てなければならぬのでしょうか。

「子どもの国語力は『暗読み(くらよみ)』でぐんぐん伸びる」(ソフトバンク新書)の著者、鈴木信一さんは活字に移行させるために次の二つのことを指摘しています。

① 言葉を映像に変換する脳のシステムを手に入れているか。
② 先の展開を予測する習慣(「先読み」の習慣)を身に付けているか。あ

「先読み」とは、それまでの語られた話を根拠にして、それとの因果関係から「次はこうなるはずだ」と先の予測をすることだそうです。①と②の力をつけるために、鈴木信一さんは、「暗読み(くらよみ)」をすすめています。その方法は、特別なことではありません。昔から親が語った「寝物語」のことです。その方法をご紹介します。

夜、子どもと一緒に布団に入って、部屋を真っ暗にし、お父さんやお母さんとお話を語って聞かせるのです。頼りとなるのは聞こえてくる言葉だけです。子どもの想像力はこのとき最高潮に達します。そして、何度も立ち止まって子どもに先の展開を予想させるなど、問いかけをします。例えば、

「昔、あるところに赤ずきんちゃんという女の子がいました。」そこで立ち止まり、「どこに女の子がいる」「赤ずきんってなんだと思う」と問いかけます。そして、ものと言葉を結びつけたり、先の展開を予想させたりします。

「暗読み」を続けた後は、音読に向かわせます。読んでもらうことが好きだった子どもが、物語を読む自分の声に耳を澄ませ、やがて自立した「本を読む人」に育っていきます。

たっぷりの読み聞かせや、「暗読み」を通して、想像力や論理的な思考力を育てたり、音読を通して日本語の表現の方法を丸ごと体感させたりする工夫をして、「絵本」から「活字」の世界に浸らせたいたですね。

今月のひとこと ③

～ 子どもをかわいがる ～

- 教室で、私は子どもがかわいいなんて思ったことはありません。もちろん、かわいくないと思ったこともありません。かわいくとか、かわいくないとかの世界ではないのです。教えることが忙しくて、そんなことを思っているひまがないのです。あの子にはこれを、この子にはこんなふうにと、次々に手を打たなければならないことがいっぱい、ほかのことを考えるひまがありませんでした。そうしてやっていくことが、結局は子どもをかわいがっていることではないでしょうか。
- いかにか言い訳しても、子どもがだめなのは、教師の不始末によるものです。

～ 大村 はま ～

授業改善・指導技術 28

～ ノート指導 その1 ～

街路樹39号で「ノート指導」について、ノートの機能と指導のポイントについて記載しましたが、47～48号では、具体的なノート指導について連載します。ノート指導に役立ててください。

◇ ノートの使い方の約束 ◇

- 1 ノートの機能を生かすためには、次のことに注意させる
 - ① ていねいに書く ② 読みやすい・見やすいように書く
 - ③ 適切な速さで書く
- 2 教科の特性に応じ各教科ごとの約束とともに、各教科共通の約束では、次のような点を考える(発達段階を考慮して)
 - ① たて書き・横書き ② 日付を書く ③ 予習・授業・復習の蘭をつくる ④ 余白をとる ⑤ 赤・青鉛筆(ボールペン)を生かす ⑥ 図・絵・グラフを取り入れる ⑦ 記号化する ⑧ その他(HB等使用する鉛筆、定規の使い方など)
- 3 板書をノートするだけでなく、自分の考えを書く
- 4 小さなことだが大事にしたいことは
 - ① 最後まで使う ② 落書きしない ③ むやみに消さない
 簡単な約束だが、すべての子どもたちが身に付けるまでには、相当の努力が必要です。約束に従ってノートを使うことによって、学習がわかる、できるというよさを味わわせるようにしたい。

学級経営のヒント 26

～ 保護者会運営の工夫 ～

担任の願いを保護者が理解することにより、意に添った支援が期待できる。より多くの保護者が参加し、意義ある保護者会となるためのポイントは。

- 1 子どもや学級のよさに関する具体的情報を準備する
 - 問題、説教、要求が多くては参加意欲が薄れる
- 2 伝え方を工夫する
 - 教師の話だけでなく、子どもたちの学習や活動のビデオ、音楽の時間の合唱や演奏のテープ、具体的な作品(作文や図工の作品など)を通して、子どものよさ・成長や担任の苦労・工夫にふれる。
- 3 すべての子に触れる工夫をする
 - 保護者の一番の関心は、わが子のことである。すべての子の情報を提供するには、一人一人の行事などの感想を一覧表にしてプリント(又は掲示)して話題にするなど。
- 4 変化をもたせる
 - 毎回のテーマを設ける
 - 専科の教師に参加してもらい、子どもの情報を伝える
 - 子どもの作品などを鑑賞する時間を設ける
 - アンケート(教育、子育て)の回答を話題とする
 - 話題にしてほしいことを事前アンケートをとる
 - 会の内容を事前に知らせる
 - 机を取り払って椅子だけで円陣にして話し合う
 - 保護者の代表に進行をまかせるなど
 - ※ あわせて、保護者に気持ちの負担をかけないよう、発言を強要したり、個人の非は話題にしたりしないよう配慮する。